

中国人留学生 賈雯さん 帰国

昨年の9月から国際教養科2年6組と一緒に学習してきた中国人留学生、賈雯(かぶん)さんが、約11ヶ月の滞在を終えて7月11日長野を発ち、14日には無事中国へ帰国しました。

7月6日にクラスでお別れ会を行い、雯さんはクラス全員の前で大変上達した日本語でお別れの挨拶をしました。日本での生活を十分楽しむことができ、貴重な思い出がたくさんできたようで、別れを惜しむ気持ちから思わず涙を流す場面もあり、感動的なお別れ会となりました。雯さんには日本の大学で勉強したいという強い希望があり、帰国後すぐに受験勉強を始めたいと言っていました。またすぐに会えることを楽しみに待っていたと思います。お元気で！



思い出を語る雯さん



校長先生にお別れの挨拶

高大連携 異文化理解授業 (7/20)

今年度第1回目の高大連携授業が、国際教養科1年7組で行われました。今年も信州大学教育学部の小池浩子先生と徳井厚子先生、そして現代教育コースの学生7名に来て頂いて、「異文化理解」の授業を実施して頂きました。今年も学生達が立案した授業を実際に受講しました。内容は「貿易ゲーム」と呼ばれるもので、5人ずつのグループに分かれ、与えられた紙と道具を使って、丸、三角などいくつかの指定された形を作り、それを換金して資産を増やしていくというものでした。紙は資源、道具は技術を表し、配布された当初からその数や種類に差があり、それは先進国、中間国、途上国を意味しており、いかに工夫して財産を殖やすかを考えさせるゲームでした。最初は戸惑っていた生徒たちは、交渉によって道具の貸し借り(売買)ができることに気づき、指定された形の価格の変動に合わせて、臨機応変に紙の加工を考え、協力しながら作業を進めていました。様々なことを考えながら行うゲームに生徒たちは熱中し、大変有意義な授業となりました。

【生徒の感想より】

- ・今回のゲームのように各国の貧富の差から異文化理解を深めるのは分かりやすく、楽しかった。
- ・現状を考え、臨機応変に対応していく力をもっと身につけていきたいなと思いました。
- ・いつもは話さない人とも協力し合ってきた。コミュニケーション能力の大切さが分かった。
- ・すごく楽しいゲームだった。世界の問題を学ぶことができました。
- ・今日学んだことは、人と人との関わりの中で、意識的に活かしていきたいことばかりでした。

高大連携授業風景



信大の先生と学生を紹介



グループに分かれてゲーム開始



各国の収益を計算



感想を発表

ロッシェル先生お別れ (7/20)

7月いっぱい、ALTのロッシェル・マイティー先生が本校を退任となりました。昨年の夏に赴任されてから1年間だけの勤務でしたが、明るく情熱的でしかも優しいお人柄から、職員、生徒たち大変慕われていました。授業も分かりやすく、とても丁寧に指導していただきました。

8月からはカナダに移住されて、メディア関係の仕事に就きたいとおっしゃっていました。

もっとも西高にいて授業や英語班の指導をしていただきたいと思っていましたので、大変残念に思いますが、ご自分の本当にやりたいことを追求したいというロッシェル先生をみんなで応援したいと思います。一年間ありがとうございました。お元気で！



離任式で挨拶するロッシェル先生

中学生体験入学 お手伝い (7/27)

7月27日(金)、中学生の体験入学が行われ、今年も国際教養科の生徒たちがお手伝いをしました。まず、2年国際教養科の生徒が5名、全体会でパワーポイントを使って国際教養科紹介のプレゼンを英語で行い、体験授業の終了後に1、2年の国際教養科の生徒計16名が、4人ずつのグループに分かれ、各教室に出向き、国際教養科の説明をしながら中学生と交流会を持ちました。



全体会でプレゼン



授業交流の様子



終わって質問に答える

プレゼンも授業交流も大変よくできました！！